

故村松祐次教授経歴年譜

明治四四年(一九一一年)

一月一六日 村松松吉・同ひちの次男として、東京府八王子市寺町一二に生まれる。

昭和八年(一九三三年)

三月 東京商科大学学部を卒業する。
一二月 近衛歩兵聯隊に入隊する。

大正六年(一九一七年)

四月 八王子市立第三小学校に入学する。

昭和九年(一九三四年)

一二月 満期退官する。
東京商科大学補手を命ぜられる。

大正一二年(一九二三年)

三月 八王子市立第三小学校を卒業する。
四月 東京府立第二中学校(現立川高校)に入学する。

昭和一〇年(一九三五年)

七月 東京商科大学助手に任ぜられる。

昭和二年(一九二七年)

三月 東京府立第二中学校を卒業する。
四月 東京商科大学予科に入学する。

昭和一二年(一九三六年)

三月 陸軍主計少尉に任ぜられる。
一二月 中国大陸に応召される。

昭和五年(一九三〇年)

三月 東京商科大学予科を修了する。
四月 東京商科大学学部に入學する。

昭和一四年(一九三八年)

七月 陸軍主計中尉に任ぜられる。

- 昭和十五年（一九三九年）
八月 召集解除される。
一二月 東京商科大学助教授に任ぜられる。
- 昭和十六年（一九四〇年）
七月 濟南総領事西田畊一・同節子の三女華子と結婚する。
” 陸軍主計中尉として北海道に赴任する。
- 昭和十七年（一九四一年）
一二月 召集解除される。
- 昭和十八年（一九四三年）
一月 東京経済研究所員に補せられる。昭和二十年六月に及ぶ。
- 昭和二十四年（一九四九年）
一月 一橋大学端艇部部长に就任する。亡くなられるまで二十六年間に亘る。
- 昭和二十五年（一九五〇年）
四月 一橋大学東京商科大学教授に昇任される。
- 昭和二十六年（一九五一年）
四月 一橋大学経済学部教授に配置換えされ、一橋大学東京商科大学教授を兼職される。太平洋クラブ部長に就任する。
- 昭和二十八年（一九五三年）
四月 大学院経済学研究科担当および大学院社会学研究科授業担当を命ぜられる。
- 昭和二十九年（一九五四年）
九月一日 東京大学講師（文学部）に併任される。一二月三十一日に及ぶ。
- 昭和三十年（一九五五年）
二月四日 中国経済研究のため香港へ出張を命ぜられる。
四月一六日 帰国
- 昭和三十三年（一九五七年）
七月一日 中国学研究のためアメリカ合衆国、イギリス、フランス、西ドイツ、スウェーデン、ポルトガル、スペイン、イタリア、中華民国へ出張を命ぜられる。
- 昭和三十五年（一九六〇年）
一月一七日 帰国

昭和三十六年（一九六一年）

八月一日 一橋大学評議員に併任される。

昭和三十七年（一九六二年）

三月三十一日 一橋大学より経済学博士の学位を授与される。

学位論文『清末江南地主制の史料的研究』

四月一日 一橋大学東京商科大学の併任を終了する。

七月三十一日 経済学上の諸問題について、連絡協議および第

四回世界国際会議に出席のため、アメリカ合衆

国、ポルトガル、スペイン、連合王国、フラン

ス、オーストリア、スイス、イタリア、ギリシ

ヤ、トルコ、イラン、インド、ビルマ、香港の

各国へ出張を命ぜられる。

十月六日 婦国。この頃、俳句雑誌「同人」に参加。

昭和三十八年（一九六三年）

四月一日 一橋大学評議員に併任される。

八月一日 一橋大学経済学部長に併任される。

昭和四〇年（一九六五年）

八月一日 一橋大学評議員に併任される。

九月三日 ユネスコ交換教授として、コレヒオ・デ・メヒ

コにおいて、講義をするため、及び講義終了後

欧州、東南アジア諸大学訪問視察のため、メキ
シコ、米国、連合王国、フランス、イタリア、
パキスタン、インド、セイロン、シンガポール、
インドネシア、タイ、カンボジア、フィリピン、中
華民国、マレーシアの各国へ出張を命ぜられる。

昭和四一年（一九六六年）

一月 婦国。この頃、絵画同人「竹林会」に参加。個

展活動も活発になる。

昭和四二年（一九六七年）

三月二〇日 第一次訪中友好参観団の一員として、中華人民

共和国を訪問する。

一二月一八日 ミシガン大学において東洋学の講義並びに東

洋学研究のための諸資料蒐集のためアメリカ合

衆国へ出張を命ぜられる。

昭和四三年（一九六八年）

四月 婦国

昭和四四年（一九六九年）

六月 一橋大学評議員に併任される。

七月一日 一橋大学長事務取扱を命ぜられる。

十一月二日 一橋大学長事務取扱を免ぜられ、一橋大学評

議員の併任を解除される。

昭和四五年（一九七〇年）

一二月

カリフォルニア大学（バークレー）において東洋経済史の研究、資料調査および研究指導のためアメリカ合衆国へ出張を命ぜられる。

昭和四六年（一九七一年）

六月

帰国

十一月四日 『近代江南の租棧―中国地主制度の研究』により、日経経済図書文化賞特賞を授与される。

昭和四七年（一九七二年）

四月

六月一日

国際基督教大学講師を委嘱される。
『近代江南の租棧―中国地主制度の研究』により、日本学士院賞を授与される。

昭和四八年（一九七三年）

四月一日

東京都立大学講師を委嘱される。共立女子学園顧問を委嘱される。

昭和四九年（一九七四年）

三月六日

肝硬変症のため北里大学病院において永眠される。

享年六十三歳。